

平成23年9月15日

小山市立博物館

博物館だより

2011
9.15

53

第58回企画展

もののふ

平成23年9月18日(日)～11月3日(木)

武士の美意識

入館料 大人200円(100円) 高・大生100円(50円) 小・中生 無料 ()内は団体
休館日 9/20(火) 26(月)、10/3(月) 11(火) 17(月) 24(月) 28(金) 31(月)

戦国の世にあつて、武士たちは領地・領民を守り、地域の覇権を競うため、甲冑を身に付けて戦に赴きました。しかし甲冑は単に身を守るためだけのものではなく、その威勢を他に知らしめる役割を担うとともに、戦場での活躍を誇示する役割をも果たしたため、つくりや色彩に一際目立つ工夫を凝らしたものが登場します。

今回の展示では、(社)日本甲冑武具研究保存会理事 松本国彦氏のコレクションの中から、戦国時代から江戸時代にかけての「変わり兜」や「変わり具足」を展示し、その形に込められた武士たちの美意識や、現代人の造形センスを超えた、その驚きのデザイン感覚を紹介いたします。

「小さな生命の輝き ～知られざる昆虫の世界～」

8/6(土)～8/31(水)まで、夏休み特別展『小さな生命の輝き～知られざる昆虫の世界～』を開催しました。

昆虫類は、地球上の生物の半数以上にもなる100万種以上が生息しています。これは、昆虫類が地球上の様々な環境等にうまく適応し、多種多様に進化を遂げてきたことを示しています。今回の特別展が、昆虫だけでなく、様々な生物への興味・関心を高め、全ての生物の生活や生命に大きく関わっている環境について考えるきっかけとなったならば幸いです。

展示内容は、大きく3つ（「Ⅰ 昆虫の多様性」、「Ⅱ 昆虫の持つ驚きの能力や特徴」、「Ⅲ 昆虫と環境との関わり」）で構成しました。また、当館が市内全小学校27校で実施している出前授業「昆虫教室」についての紹介や「昆虫シルエットクイズ」を用意して、楽しみながら見学できるような工夫もしました。開催期間中は多くの子どもたちが来館し、連日大盛況でした。

震災は県内の文化財へも大きな被害を与えました



震災後の資料修復と余震対策

今回の大震災で、常設展示中の円筒埴輪2点が台から落下し、接合部分が剥離してしまいました。幸いなことに新たな損傷は無く修復も容易でしたが、今後の余震に備えるため、大急ぎで心棒付きの台を自作しました。四角い合板の中心に太い杉材の心棒をつけた簡単なものですが、表面にフェルトを貼ったので、埴輪底部との接触をソフトにすることができました。埴輪を差し込み、心棒のまわりに緩衝材を詰めるときちんと固定され、その後の大きな余震でも全く動かなくなりました。

コラム 博物館職員雑記帳

寺子屋では下ネタは禁止です

学芸員 尾上 仁美

博物館では小中学生に接する機会も多く、自分の子ども時代に比べれば断然優秀なのですが、時には偉そうに説教をしてしまうこともあります。良心が痛みます。

ところで、学校制度が整う前の「手習道場」、いわゆる寺子屋の規則が小山にも残されています。道場には「遊持もの、あるいは絵草紙、又は鳥目」現代風に言えばゲーム、漫画、お金は持ってこないこと、「高声・高笑・悪言・無礼・下掛け」騒いだり、罵ったり、下ネタも禁止です。さらには「途中にて遊び、あるいは水を浴び候事は堅く法度に候」ともあります。うん、暑い日が続くと水でも浴びたくなるよね。…当時の師匠たちの苦勞が偲ばれます。

紙芝居 (昭和13～20年)



市内下河原田の保寿寺に保管されていた紙芝居です。内容が一部欠落しているものも含め34作品あり、全て昭和13(1938)～20(1945)年の間に発行されたものです。昭和16年の作品が14点、次いで17、18年がそれぞれ8点で、戦時下の世相を反映した『焼夷弾』・『総意の進軍』・『愛国の道』・『軍神の母』などのタイトルが並びます。

当時、子ども達の数少ない娯楽であった街頭紙芝居は、『黄金バット』の大ヒットとともに、昭和初期に全

盛期を迎えます。しかし、昭和10年代になると、戦争遂行という国策に従って、戦意高揚を促すことを意図して増産されるようになり、実演の場も街頭から学校、教会、寺などが中心となっていきました。少国民と呼ばれ軍国主義の激しい時代の流れの中に巻き込まれていった子どもたちが、どのような思いでこの紙芝居を見つめていたのか、考えさせられる資料です。

(飯島 快尚氏 寄贈)

後期は木星がよく見えます

平成23年度後期 天体観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場において太陽の観測を行い、夜は生井公民館において星座や星の観測を行います。これからの季節は星の観測には良い時期となる上、見どころもたくさんあります。

例えば、12月10日の夜ふけから翌11日の未明にかけては、世界的に見ても日本での見え方が一番と言える素晴らしい皆既月食が見られます。また、太陽系最大の惑星である木星、さらにはオリオン座やすばる(プレアデス星団)といった有名な星座や星団、数多くの明るい星も見られ、とてもにぎやかな星空を眺めることができます。

博物館の観望会への参加はもちろん、ご家庭でも夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。



前期講座 まが玉をつくろう

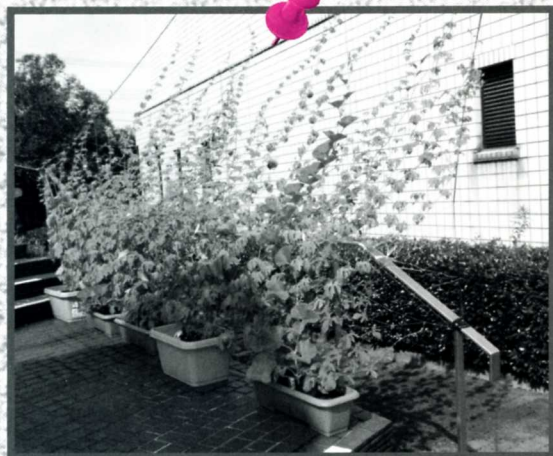
5月29日(日)に前期講座の「まが玉を作ろう」を実施しました。30名ほどの参加者の皆さんが、古代に思いをはせながら、世界にひとつだけのオリジナル勾玉作りに挑戦しました。

勾玉の材料には「滑石」という石を使います。自分の作りたい形をイメージしながら、紙やすりを使って石を削り、目の細かい水やすりを2種類使い分けて、表面の傷を消しながら仕上げていきます。

慣れない作業に苦戦し、時間の経過と共に疲れが見えてきていた参加者の皆さんの表情も、仕上げの工程を終えて一変。輝く勾玉を目にし、自分の作品のできばえに大いに満足されていたようでした。



季節の一枚 「グリーンカーテン」



電力供給がひっ迫する中で、会社や工場で節電対策が行なわれ、いろいろな施設や家庭においても節電への取組みが積極的に行なわれています。その一つが「グリーンカーテン」でしょう。博物館においても、今年の夏を乗り切ろうと、6月ごろから、プランターでゴーヤ・ヒョウタン・アサガオなどのグリーンカーテン作りを始めました。・・・猛暑の中、期待通りとはいきませんが、ゴーヤのツルは4メートルぐらいネットを這い、おいしそうなお実をつけています。また、ゴーヤの黄色い花、アサガオの紫の花、ヒョウタンの白い花がきれいにカーテンを飾っています。

◆ HP引越しのお知らせ ◆

博物館のホームページは現在引越し作業中です。引越し先は

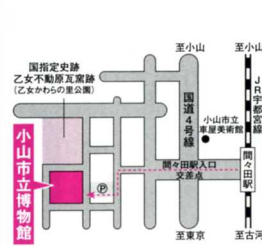
<http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/index.html> です。

10月ごろには引っ越す予定ですが、文系職員が大半を占める当館での戦況は芳しくありません。移行までは今まで通り <http://www5.city.oyama.tochigi.jp/hakubutu/> をご覧ください。

寄贈者芳名 (平成23年1月～7月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 山中 隆寛 (小山市) 昆虫標本 207点
- 塚原 進 (小山市) 戦中資料 39点



発行年月日/平成23年9月15日
 発行/小山市立博物館
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
 電話/(0285) 45 - 5331
 ファックス/(0285) 45 - 5247
 印刷/(株)ダイサン小山